

兵庫県豊岡市におけるコウノトリ学習に

向けてのこどもたちの意識

——「ふるさと教育」の実施に向けて——

本 田 裕 子

I. 背景・目的

日本では、絶滅危惧種であるコウノトリやトキを対象にした野生復帰事業が実施されている。絶滅危惧種の多くが里山に代表される二次的自然を生息空間としていることから、野生復帰の対象となる生物が安定的に生息していくには、野生復帰が実施される地域住民の理解と協力が欠かせない。地域住民とのかかわりや意識に着目した調査研究は、例えばコウノトリの野生復帰事業が実施されている兵庫県豊岡市の事例で数多く実施されている（菊地，2006；本田，2008）。また各地で実施されている野生復帰事業について事例横断的に住民意識の比較を考察したものもある（本田，2016a）。これらの先行研究では、地域住民が対象種と重層的なかかわりをもつことの重要性や、地域住民が対象種を「地域のもの」として地域資源化していくプロセスの存在が報告されている。

一方で、これらの調査研究は成人を対象にしたものである。野生復帰事業が長期にわたり実施されていくものであり、事業の目標を長期的に見た場合には、対象種が絶滅危惧種である希少種から普通種になることであり¹⁾、長期にわたり実施されることが想定される。そのため住民の理解と協力も長期に必要とされ、将来の担い手となる若年層やこどもを対象にした意識啓発も必要となってくる。なお、豊岡市民を対象にしたアンケート調査結果では、野生復帰への賛否等も含め、20歳代や30歳代の肯定的な認識が他の世代

よりも低いことが指摘されている(本田, 2016b)。これらの点をふまえると、今後の野生復帰事業の長期的な展開の下では、若年層や子どもを対象にした意識啓発がやはり重要であり、それに関連した調査研究が必要となってくるといえる。例えば、トキの野生復帰が実施されている新潟県佐渡市の全小学校・中学校においてトキについての学習を含めた環境教育の実施状況を把握した研究(高橋・本田, 2016)もあり、現状と課題が示されている。

豊岡市では、これまで学校教育の中で、市内の学校給食に「コウノトリ育むお米」を使用する²⁾、「豊岡市生物多様性地域戦略」の策定に高校生が参加する等といったさまざまな実践を行ってきた。また、「第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)」(2015年)では、「コウノトリを核にした環境教育」に取り組むことが明記されている。現在、市内の多くの小学校で、水田等を利用した生き物調査が実施されるようになっており、29の小学校区のうち16の小学校区で休耕田を利用したジオトープ水田を設置し、環境教育の拠点地にもなっている(豊岡市資料より)。

これまでコウノトリについて熱心に学習活動を展開してきている小学校もある。例えば、野生復帰の拠点施設である「県立コウノトリの郷公園」に近い三江小学校では、飼育されているコウノトリを見学しやすいことはもちろんであるが、校庭内に人工巣塔があり、そこでコウノトリの繁殖が成功していることから、子どもが巣塔にいるコウノトリを間近で観察することができる。このような生きた教材がすぐそばにある学校や、興味や関心を持つ教員がいる学校は、コウノトリの野生復帰について積極的に教育利用するが、これらに該当しない学校や、例えば熱心な教員が異動してしまった学校では、取り組みが衰退し、場合によっては途絶えてしまうこともある。このため、学校や教員の裁量に委ねるだけではなく、何らかの枠組みの中でコウノトリ学習の体制を整える必要が認識されていた。

そのような中、2017年4月から市内の全中学校区で小中一貫教育「豊岡こうのとりのとりプラン」が開始されることになり、共通して「ふるさと教育」・「英語教育」・「コミュニケーション教育」の3分野を「ローカル&グローバル学習の時間」として取り組むことになった。「ふるさと教育」は、目指す子ども像を「豊岡の『ひと・もの・こと』のつながりと未来を世界標準で考

え、ふるさと豊岡を自分の言葉で語り誇れる子」とし、小学校3年生から中学校3年生までに、「コウノトリ」、「産業・文化」、「ジオパーク」について学習する。

「コウノトリ」については小学校3年生と小学校5年生が学び、中学校3年生では他の学年で学習した「産業・文化」と「ジオパーク」を併せて、3つのテーマ全体の学習のまとめを行う。小学校3年生では「コウノトリを知る」をテーマに、15校時学習する。小学校5年生では「コウノトリと共に生きる」をテーマに15校時学習する。豊岡市教育委員会は、それぞれの標準カリキュラムを定めており、また「ふるさと教育」の副読本として2017年3月に「豊岡ふるさと学習ガイドブック」を発行した。この副読本の作成経緯については本田（2017）を参照されたいが、この副読本を活用することで、「コウノトリ」、「産業・文化」、「ジオパーク」に関するさまざまな知識をこどもたちに教えることができる。

「ふるさと教育」を今後よりよいものにしていくにあたり、開始初年度である2017年度の実施状況をみることは必要な作業といえる。そのためにも「ふるさと教育」が実施される前段階において、こどもたちがコウノトリや「ふるさと」である豊岡市についてどのような認識であるのかを把握することは重要と考える。

II. 方法

本研究では、「ふるさと教育」でのコウノトリ学習の対象学年である小学校5年生について、学習前段階の意識をアンケート調査により把握し、考察を行いたい。なお、この研究は、豊岡市との共同研究である「コウノトリ次世代育成ふるさと教育効果検証共同研究」の成果の1つとしても位置づけられている。

学習前段階において、こどもたちがコウノトリについて、どのような認識であるのか、これまでコウノトリ学習に取り組んできたことの有無やコウノトリが校区内で営巣・生息している有無を問わず、市内全域の小学校5年

生を対象とした。これは、市内のすべての小学校において、「ふるさと教育」でのコウノトリ学習が実施されるからである。

アンケート調査は、2017年1月より作成をはじめ、豊岡市コウノトリ共生課やこども教育課とも検討・調整を行い、コウノトリ共生課より4月の校長会において各小学校への協力依頼がなされた。アンケートは全28問とし、質問内容は表1に整理した。内容は、こどもの性別や豊岡市内での居住年数といった基本属性から、コウノトリについての認識だけではなく、学習姿勢や豊岡についての認識についても質問した。これは、「ふるさと教育」の評価を行う上で、学習姿勢や豊岡についての認識を聞くことは必要であると考えたためである。回答については、市内の小学校5年生全員が対象のため、集計作業の効率を考え、マークシート方式を採用した。したがって、すべて選択式での回答となる。

表1 アンケートの構成

質問番号	質問
1	あなたの性別を教えてください
2	豊岡市内に何年ぐらい住んでいますか？
3	自然にふれたり自然のもので遊んだりすることは好きですか？
4	写真の中から「コウノトリ」を選んでください
5	コウノトリのことが好きですか？
6	コウノトリについて知っていますか？
7	豊岡でのコウノトリについての取組を、他の人に説明できますか？
8	コウノトリは「豊岡のシンボル（代表するもの）」だと思いますか？
9	豊岡市はコウノトリがくらしにできる環境になっていると思いますか？
10	あなたがコウノトリと共にくらししていく上で、むずかしいことはあると思いますか？
11	あなたはコウノトリのために何かしようと思いますか？
12	あなたはコウノトリのために自分ができることを何かしていますか？
13	これから「ふるさと教育」の時間にコウノトリについて学ぶことが楽しみですか？
14	「総合的な学習の時間」は好きですか？
15	本やテレビで知ったことについて、「本当かな？」と考えることがありますか？
16	「どうしてだろう？」「どうすればよいだろう？」などと工夫して考えていますか？
17	1つのやり方だけでなく、「他にもないかな？」と考えることは得意ですか？
18	自分で考えたことを説明することは得意ですか？
19	何か問題に取り組むとき、他の人と協力することができますか？
20	話し合いに積極的に参加することができますか？
21	日本や世界で起こっているニュースに関心がありますか？
22	英語を学習することは好きですか？
23	あなたは豊岡（豊岡市）のことが好きですか？
24	あなたには豊岡（豊岡市）のことで自慢できることがありますか？
25	豊岡市内で起こっているニュースに関心がありますか？
26	住んでいる地区の行事（お祭りや清掃活動など）に参加するのは好きですか？
27	豊岡市のこれらについて、「こどもの意見が聞きたい」とよびかけられた時に、参加したいと思いますか？
28	大人になっても豊岡市内に住みたいと思いますか？

それぞれの学校がコウノトリ学習を実施する前にアンケートの実施を依頼したため、学校により4月から9月までと幅広い回答時期となった(表2)。アンケートの実施については、コウノトリ共生課が配布・回収先となり、全29校のうち28校の回収が行われた。市内の小学校5年生は734人であり(2017年4月時点)、そのうち726人からの回答を得たことになり、98.9%の回収率となる。マークシート方式の回答については、こどもたちがうまく回答(マーク)できないことも予想されたが、1つの小学校以外の27校はマークシートでの回答により返送された。

小学校により居住地が判明するので、豊岡市合併以前の6つの旧市町単位で集計した結果、旧豊岡地区に居住するこどもが最も多く、次に旧日高地区が多くなった(表3)。また、小学校の規模は、学級数による分類として「公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引き」を参考に、表4に整理した。小規模校のこどもが約半数を占めていることがわかる。

表2 アンケートの回答時期

	人数	%
4月	307	47.5
5月	85	13.2
6月	65	10.1
8月	20	3.1
9月	169	26.2
合計	646	100

注：1校の回答時期が不明のため集計に加えていない。

表3 居住地

	人数	%
旧豊岡	369	50.8
旧日高	173	23.8
旧出石	96	13.2
旧但東	29	4.0
旧竹野	33	4.5
旧城崎	26	3.6
合計	726	100

表4 学校の規模

	人数	%
過小規模校	34	4.7
小規模校	367	50.6
適正規模校	222	30.6
大規模校	103	14.2
合計	726	100

注：それぞれの学級数は、過小規模校 1～5、小規模校 6～11、適正規模校 12～18、大規模校 19～30 と区分した。

Ⅲ. 結果

1. 属性

性別は、男子 47.7%、女子 52.3% となった（表 5）。豊岡市内での居住年数では、「生まれてからずっと」が 8 割に達した（表 6）。自然にふれたり自然のもので遊んだりすることが好きかどうかは、「とても好き」が約 5 割であり、「少し好き」と合わせると、9 割近くのこどもが自然にふれたり遊んだりすることが好きとなる（表 7）。

表5 性別

	人数	%
男子	346	47.7
女子	380	52.3
合計	726	100

表6 豊岡市内での居住年数

	人数	%
生まれてからずっと	587	81.0
6～10年ぐらい	97	13.4
3～5年ぐらい	32	4.4
1～2年ぐらい	2	.3
1年よりみじかい	7	1.0
合計	725	100

表7 自然にふれたり自然のもので遊んだりするのが好きか

	人数	%
とても好き	356	49.1
少し好き	276	38.1
あまり好きではない	56	7.7
まったく好きではない	8	1.1
わからない	29	4.0
合計	725	100

2. こどもたちのコウノトリ・学習姿勢・豊岡市についての認識

アンケート結果から、(1) コウノトリについての認識、(2) 学習姿勢、(3) 豊岡市についての認識の3項目に分けて報告する。

2-1. コウノトリについての認識

アンケートでは、コウノトリを含めた4種の鳥の写真を示し、コウノトリをそれらの写真の中から回答してもらった質問を設けた。結果、98.9%のこどもが写真の中からコウノトリを正しく選択していた(図1)。なお、筆者が所属する大正大学人間環境学科1年生の正解率は60.3%であった(学生数68人)³⁾。関東地方の大学生と豊岡市内の小学生を一概に比較することはできないが、豊岡市内のこどもたちがコウノトリについて十分に認知できる環境にあるといえる。

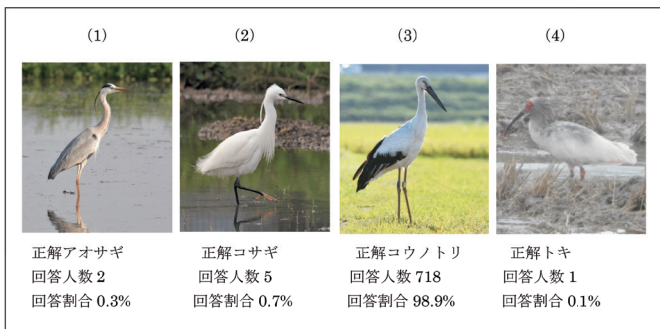


図1 質問で掲示した4種の鳥と回答結果

コウノトリのことが好きかどうかについては、「とても好き」が49.0%と約半数であり、「少し好き」39.0%と合計すると9割近くになる（表8）。一方で、コウノトリのことを知っているか、豊岡でのコウノトリの取り組みについて他の人に説明できるかについては、「よく知っている」が29.1%、「たくさん説明できる」が11.0%であった（表9、表10）。コウノトリについて、「とても好き」が多い一方で、「よく知っている」や「たくさん説明できる」についてはその割合が低いことがわかる。

表8 コウノトリのことが好きか

	人数	%
とても好き	355	49.0
少し好き	283	39.0
あまり好きではない	47	6.5
まったく好きではない	9	1.2
わからない	31	4.3
合計	725	100

表9 コウノトリのことを知っているか

	人数	%
よく知っている	211	29.1
少し知っている	409	56.5
あまり知らない	88	12.2
まったく知らない	16	2.2
合計	724	100

表10 豊岡でのコウノトリの取り組みを他の人に説明できるか

	人数	%
たくさん説明できる	79	11.0
少し説明できる	339	47.4
あまり説明できない	224	31.3
まったく説明できない	73	10.2
合計	715	100

コウノトリが「豊岡のシンボル」であるかどうかについては、「とても思う」が68.7%であり、「少し思う」と合わせると9割近くになる（表11）。また、

豊岡市内はコウノトリがくらししていける環境であるかどうか、コウノトリと共にくらしていく上でむずかしいことがあるかどうかについては、くらししていける環境については「とても思う」58.2%、むずかしいことは「少し（あと）思う」34.5%が最も多く選ばれていた（表11）。

表11 コウノトリが「豊岡のシンボル」であるか、豊岡市内でくらしがいける環境があるか、共にくらしていく上でむずかしいことがあるか

	とても 思う	少し 思う	あまり 思わない	まったく 思わない	わから ない	回答者数
①コウノトリは「豊岡のシンボル」だと思いますか？	68.7%	21.2%	3.4%	1.1%	5.5%	726
②豊岡市はコウノトリがくらしがいける環境になっていると思いますか？	58.2%	32.3%	4.1%	0.6%	4.8%	725
③あなたがコウノトリと共にくらしていく上で、むずかしいことはあると思いますか？	6.2%	34.5%	25.8%	14.9%	18.6%	725

コウノトリのために何かしようと思うかどうかについては「とても思う」が33.6%であり、「少し思う」が48.5%と最も多く選ばれていた（表12）。実際にコウノトリのために何か取り組んでいるかについては「たくさん取り組んでいる」が6.0%であり、「あまり取り組んでいない」が39.9%と最も多く選ばれていた（表13）。「何かしようと思う」割合が約8割である一方で、実際に「取り組んでいる」のは約4割と大きな差となっている。また、「何かしようと思う」については、筆者が2015年に豊岡市内の20歳代から70歳代までの市民から無作為抽出により選定した1,000人を対象にしたアンケート調査結果では、何かしようとする意思が「ある」58.0%、「ない」42.0%であった（回答者数531人）。こどもの方が「何かしようと思う」割合が高い結果となった。

表 12 コウノトリのために何かしようと思うか

	人数	%
とても思う	243	33.6
少し思う	351	48.5
あまり思わない	105	14.5
まったく思わない	24	3.3
合計	723	100

表 13 コウノトリのために何か取り組んでいるか

	人数	%
たくさん取り組んでいる	43	6.0
少し取り組んでいる	262	36.4
あまり取り組んでいない	287	39.9
まったく取り組んでいない	128	17.8
合計	720	100

これから「ふるさと教育」でコウノトリについて学ぶことは、「とても楽しみ」42.0%、「少し楽しみ」38.2%であり、合計すると8割になる（表14）。ただし、既述したように「ふるさと教育」開始以前から、独自にコウノトリ学習を取り入れている小学校もあり、すでにある程度学んでいるこどもにとっては「楽しみ」と思うかどうかについては留意しておく必要がある。しかし、多くのこどもたちに「楽しみ」と思われており、学習後の段階での「楽しみ」がどのように変化していくのかを見ていく必要があるだろう。

表 14 これから「ふるさと教育」でコウノトリを学ぶことについて

	人数	%
とても楽しみ	305	42.0
少し楽しみ	277	38.2
あまり楽しみではない	65	9.0
まったく楽しみではない	13	1.8
わからない	66	9.1
合計	726	100

2-2. こどもの学習姿勢について

学習姿勢については9つの質問をした。「総合的な学習の時間」が好きであるかは、「ふるさと教育」が「総合的な学習の時間」内で行われるために質問をし、英語学習については、豊岡市が「ふるさと教育」と併せて「英語教育」が、既述した小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」に含まれるために質問をした。他の7つの具体的な学習行動については、コウノトリ学習がいわゆるコウノトリそのものの学びだけではなく、豊岡市の自然環境や政策・社会についての学びが含まれることから、ESD（持続可能な開発のための教育）に類するものと考えた。国立教育政策研究所の「ESDの視点に立った学習指導の目標」において、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例として挙げられていた7つを参考にした。7つの能力・態度とは、①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力、④コミュニケーションを行う力、⑤他者と協力する力、⑥つなぐを尊重する態度、⑦進んで参加する態度、である。

質問の結果は表15にまとめた。「総合的な学習の時間」については、「とても好き」、「少し好き」を合計すると約8割となった。英語学習については、「とても好き」が50.6%となり、「総合的な学習の時間」を「とても好き」と回答した割合43.9%よりも高い割合となった。具体的な学習行動については、「何か問題に取り組むとき、他の人と協力することができますか？」に対して「よくできる」と回答した45.6%が最も高い割合であった。一方で、「自分で考えたことを説明することは得意ですか？」に対する「とても得意」が15.6%、「1つのやり方だけでなく、『他にもないかな?』と考えることは得意ですか？」に対する「とても得意」が18.3%と他の質問に比べると割合が低くなった。この2つの質問については「あまり得意ではない」とする回答の割合が他の質問に比べて高くなっており、苦手意識を持っていることが伺える。

表 15 こどもの学習姿勢に関する質問の結果

	とても好き ／よく 考える／と ても 得意／よく できる／と ても関心が ある	少し好き／ 少し考える ／少し得意 ／少しでき る／少し関 心がある	あまり好き ではない／ あまり考え ない／あま り得意では ない／あま りできない ／あまり関 心がない	まったく好 きではない ／まったく 考えない／ まったく得 意ではない ／まったく できない／ まったく関 心がない	わからない	回答者数
①「総合的な学習の時間」は好きですか？	43.9%	40.6%	9.5%	2.2%	3.7%	726
②本やテレビで知ったことについて、「本当かな？」と考えることがありますか？	34.1%	41.7%	15.6%	6.2%	2.5%	725
③「どうしてだろう？」「どうすればよ いだろう？」などと工夫して考えてい ますか？	31.1%	46.7%	15.4%	2.6%	4.1%	726
④1つのやり方だけでなく、「他にもな いかな？」と考えることは得意ですか？	18.3%	40.6%	31.7%	4.4%	5.0%	725
⑤自分で考えたことを説明することは得 意ですか？	15.6%	30.6%	37.6%	12.9%	3.3%	726
⑥何か問題に取り組むとき、他の人と協 力することができますか？	45.6%	40.6%	9.1%	1.7%	3.0%	724
⑦話し合いに積極的に参加することがで きますか？	34.0%	38.8%	20.0%	3.6%	3.6%	726
⑧日本や世界で起こっているニュースに 関心がありますか？	39.5%	42.0%	13.3%	5.3%	—	722
⑨英語を学習することは好きですか？	50.6%	33.2%	11.3%	2.6%	2.3%	726

2-3. 豊岡市についての認識

ここでは、コウノトリ学習が「ふるさと教育」の枠組みの中で実施されることから、「ふるさと」である豊岡市についての質問結果を述べたい。そもそも、豊岡（市）が好きかについては、「とても好き」70.5%、「少し好き」22.2%と合計すると約9割が「好き」と回答していた（表 16）。一方で、豊岡（市）のことで自慢できることがあるかについては、「たくさんある」41.6%、「少しある」41.0%となる（表 17）。豊岡（市）について「とても好き」が多いが、自慢できることは「たくさんある」とは言えない認識であることが伺える。

表 16 豊岡（市）が好きか

	人数	%
とても好き	512	70.5
少し好き	161	22.2
あまり好きではない	23	3.2
まったく好きではない	9	1.2
わからない	21	2.9
合計	726	100

表 17 豊岡（市）のことで自慢できることがあるか

	人数	%
たくさんある	302	41.6
少しある	298	41.0
あまりない	64	8.8
まったくない	22	3.0
わからない	40	5.5
合計	726	100

豊岡市内のニュースに関心があるかについては、「とても関心がある」38.9%、「少し関心がある」40.7%となった（表 18）。表 15 で取り上げた、日本や世界で起きているニュースへの関心では、「とても関心がある」39.5%、「少し関心がある」42.0%であり、ほぼ変わらないこともわかる。

表 18 豊岡市内のニュースに関心があるか

	人数	%
とても関心がある	280	38.9
少し関心がある	293	40.7
あまり関心がない	106	14.7
まったく関心がない	41	5.7
合計	720	100

住んでいる地区の行事について参加するのが好きかどうかについては、「とても好き」69.7%、「少し好き」22.1%となり、合計すると約9割が「好き」となる（表 19）。

表 19 住んでいる地区の行事に参加するのは好きか

	人数	%
とても好き	505	69.7
少し好き	160	22.1
あまり好きではない	38	5.2
まったく好きではない	7	1.0
わからない	15	2.1
合計	725	100

次に、豊岡市について、「好き」「関心」だけではなく、「参加」する姿勢があるかどうかについて、「豊岡市のこれからについて、『こどもの意見が聞きたい』とよびかけられた時に、参加したいと思いませんか?」という質問をした結果について述べたい。「とても参加したい」21.9%、「少しは参加したい」45.7%となり、他の質問に比べると割合は低くなっている（表 20）。こどもにとって、「意見が聞きたい」と呼びかけられて参加するのは敷居が高いイメージがあったためとも思われるが、そのような想定の中で、むしろ「少しは参加したい」と回答した割合が 45.7%であったことは決して低い数字ではないといえる。

表 20 「豊岡のこれから」について意見が聞きたいと呼びかけられて参加したいか

	人数	%
とても参加したい	158	21.9
少しは参加したい	329	45.7
あまり参加したくない	184	25.6
まったく参加したくない	49	6.8
合計	720	100

最後に、大人になってからの豊岡市内への定住意思について質問した結果である。これは「ふるさと教育」の教育効果を考えていく 1つの指標として、「豊岡市内への定住」を考えたからである。「ふるさと教育」の設立経緯には、昨今の「地方創生」というキーワードがあるように、人口減少に悩む豊岡市の事情もあると思われる。小学校 5年生のこどもたちへの「大人になっても・・・」という質問であるため、現実の数字とそぐわないことも考えられ

るが、現時点で子どもたちがどのような認識であるのかを把握するために質問した。結果、「とても思う」42.3%、「少し思う」28.8%となり、約7割の子どもが豊岡市内への定住意思があることがわかった（表21）。

表21 大人になっても豊岡市内に住みたいと思いますか？

	人数	%
とても思う	306	42.3
少し思う	208	28.8
あまり思わない	80	11.1
まったく思わない	36	5.0
わからない	93	12.9
合計	723	100

IV. 考察

アンケート調査の結果として、明らかになったことは以下の通りである。

まず、コウノトリについての認識は図2に整理した。現時点では、「好き」という認識が最も高く、「説明できる」や「実際の取り組み」に関する認識が低い。子どもたちの多くがコウノトリのことが好きであるので、「ふるさと教育」でのコウノトリ学習の実施により、「説明できる」や「実際の取り組み」への認識が増えていくことが、教育効果の1つにもなるだろう。

次に、学習姿勢については、批判的に考えることや工夫して考えることへの認識はある程度高いが、多面的に考えることへの認識は低く、他者への説明することへの認識も低い。前述のコウノトリに関する「説明できる」にも関連しており、そもそも他者に説明することに対する苦手意識を持っていることが伺える。「ふるさと教育」で目指す子ども像は「ふるさと豊岡を自分の言葉で語り誇れる子」であり、「語る」とは「説明する」ことでもある。したがって、「ふるさと教育」の教育効果を見る上で、「説明できる」が指標の1つとなることが示唆される。

そして、豊岡市についての認識については図3に整理した。豊岡市を「好き」である割合は高い。そして、住んでいる地区の行事に参加することを「好き」

である割合も高い。一方で、豊岡市のことで「自慢できること」があるかどうかについての質問結果はこれよりも割合は低い。大人になった時の定住意思も同様に比較すると低い。また、「豊岡市のこれからについて、『こどもの意見が聞きたい』とよびかけられた時に、参加したいと思いますか?」という質問に対しての参加意欲も低い。豊岡市について「好き」であるだけでなく、「自慢できること」や定住意思や参加意欲について、今後その割合が増えていくことが、「ふるさと教育」の教育効果の1つとなるだろう。

ただし、小学校5年生のこどもの「好き」であり、現時点での定住意思であることには留意が必要である。これが中学生や高校生になっても続くのかどうか、もし変化するのであればいつ頃変化するのかを把握することも「ふるさと教育」の教育効果を考える上で必要だろう。

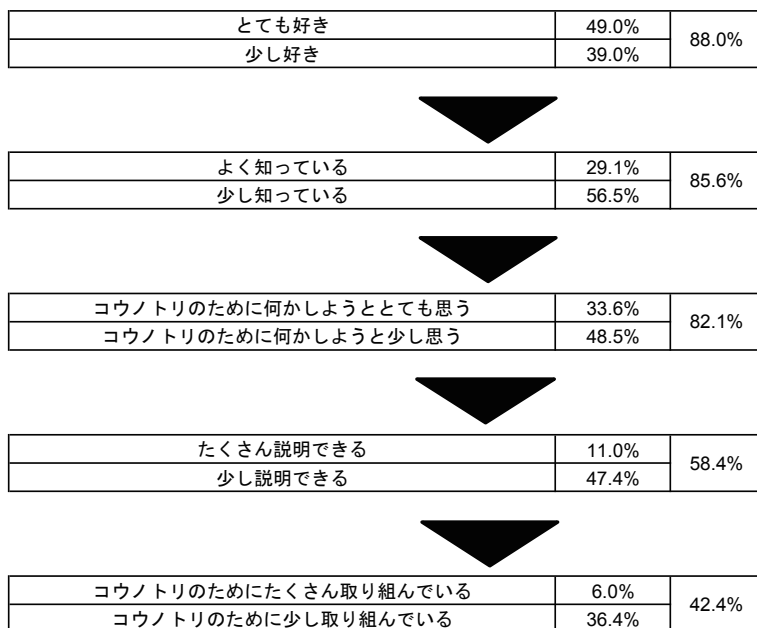


図2 コウノトリについての認識の比較

注：矢印の下にいく程、合計の回答割合は低下する。

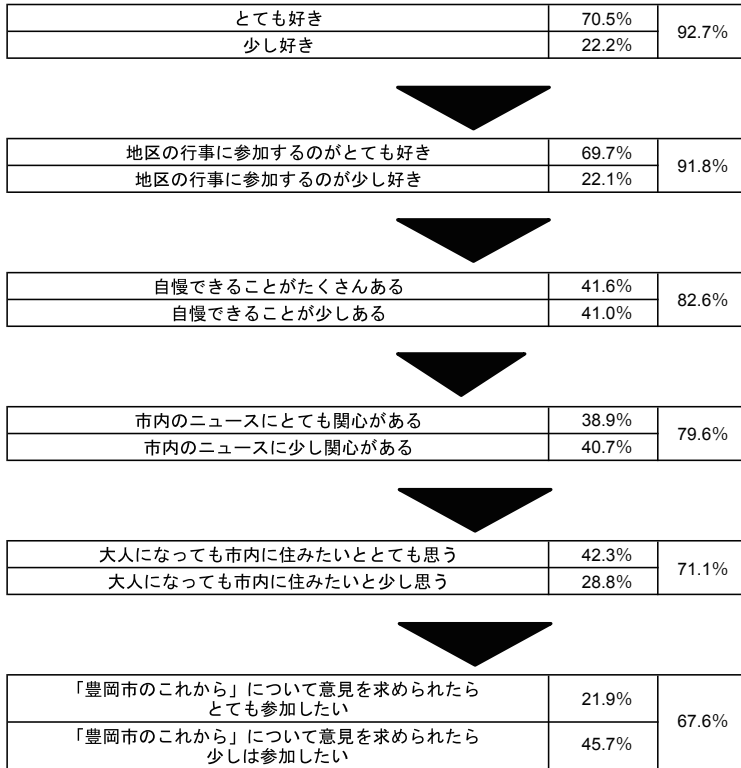


図3 豊岡市についての認識の比較

注：矢印の下にいく程、合計の回答割合は低下する。

本研究は、「ふるさと教育」でのコウノトリ学習の実施前段階での小学校5年生の認識をアンケート調査により明らかにした。教育効果をみるには、コウノトリ学習の実施後の認識を把握することが必要であるし、また子どもだけではなくコウノトリ学習を実施した教員についても話を聞き、実際にどのような学習活動を展開し、子どもたちがどのような反応であったのか、どのような学習成果があったのか、課題もあれば併せて把握することも必要である。なお、「ふるさと教育」の教育効果は単年でみるだけではなく、子どもたちの特性もあるので複数年での把握や、追跡での把握も必要である。本

研究で明らかにした小学校5年生の認識は、コウノトリ学習の実施前段階であり、今後の調査研究で明らかになるデータとの比較が可能となる重要な基礎データといえる。本研究は豊岡市全域の小学校5年生の認識についての単純集計の報告とその考察となったが、小学校による認識の違いや、自然が好きかどうかによつての認識の違いもあると思われるので、引き続き分析を行い、報告していきたい。

註

- 1) 2011年8月に兵庫県教育委員会と県立コウノトリの郷公園が策定した「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」では、コウノトリが普通種になることを野生復帰事業の最終目標としている。
- 2) 豊岡市内の学校給食では2009年4月から週5日米飯であるが、2016年4月からは「コウノトリ育むお米」が毎日使用されている。
- 3) 大正大学人間環境学科1年生が受講するオムニバス授業科目「人間環境論」において、筆者は2017年6月にコウノトリの野生復帰についての取り組みを1回講義し、その後7月の定期試験で今回と同様の4種の鳥の写真からコウノトリを選んでもらう設問を入れたところ、正解率は60.3%であった(学生数68人)。人間環境学科は環境政策コースとこども文化・ビジネスコースから構成されるため、環境問題に必ずしも関心のある学生だけではない。講義でコウノトリについてはじめて知る大学生が大半であったことも留意すべきであるが、豊岡のこどもたちの認知度が高いことが伺える数字である。

付記

本研究では、「コウノトリ次世代育成ふるさと教育効果検証共同研究」により実施したアンケート調査データを利用しました。また一部、科学研究費若手(B)(研究課題番号:15K16248「絶滅危惧種の野生復帰事業にかかる野生生物保全教育の意義と課題の析出」)を利用しました。アンケート調査に回答いただいた兵庫県豊岡市内の小学校5年生の皆様および各小学校の先生方には、ご協力をいただき、まことにありがとうございました。アンケー

ト実施に際して、豊岡市コウノトリ共生課の伊崎様、豊岡市こども教育課をはじめとする豊岡市役所の皆様、大正大学人間学部人間環境学科の高橋正弘先生、学生の清水実生子氏には多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

文献

- 本田裕子（2008）『野生復帰されるコウノトリとの共生を考える―「強いられた共生」から「地域のもの」へ』原人舎（東京）：316 pp.
- 本田裕子（2016a）「国内で実施・計画されている野生復帰事業に対する住民の意識の特徴」『環境情報科学論文集』30：285-290.
- 本田裕子（2016b）「豊岡市におけるコウノトリ保護と環境教育をめぐる住民の認識について」『日本環境教育学会第27回大会（東京）発表要旨集』：45.
- 本田裕子（2017）「野生復帰事業が行われている自治体での副読本教材の作成状況について」『環境情報科学論文集』31：279-282.
- 菊地直樹（2006）『蘇るコウノトリ―野生復帰から地域再生へ』東京大学出版会（東京）：263 pp.
- 高橋正弘・本田裕子（2016）「佐渡市の小中学校におけるトキ保護をテーマとした環境教育の実施状況」『日本環境教育学会関東支部年報』10：5-10.

資料

- 兵庫県豊岡市「コウノトリ野生復帰のあしあと」（2017年1月発行）.
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター「『持続可能な開発のための教育（ESD）』はこれからの世界の合い言葉 みんなで取り組むESD！―持続可能な社会づくりを目指した取組に向けて―」（2015年3月発行）.